

# 社会資本総合整備計画 事後評価

快適な生活を育むまち かしはら を実現する下水道整備(重点計画)

令和5年10月

奈良県 橿原市

評価結果のまとめ

都道府県名	奈良県	市町村名	橿原市	計画期間	令和3年度～令和4年度	全体事業費	941,000 千円
計画名	快適な生活を育むまち かしはら を実現する下水道整備(重点計画)						
計画目標	特色ある魅力的なまちづくりを実現し、将来にわたって快適な賑わい溢れるまちであり続けるため、下水道の都市基盤整備を進める。						

1)事業の実施状況	事業名	事業名		削除・追加した理由		削除・追加による指標等への影響	
		事業コード	事業内容	理由	理由	影響	影響
	基幹事業	A07-001	第2処理区 汚水管渠				
	関連社会資本整備事業						
	効果促進事業	C07-001	生活排水クリーンアップ推進事業				
		当初		変更	—		

2)社会資本総合整備計画に記載した数値目標の達成状況	指標		単位	当初現況値	最終目標値	最終評価値	達成度※	達成見込みの有無		所見(効果発現要因等)
	指標コード	指標内容		R3当初	R4末	R4末		あり	なし	
	指標1	橿原市の公共下水道(汚水)の下水道処理人口普及率を79%(令和3年度当初)から81%(令和4年度末)に向上させる。	%	79%	81%	80%	×	●		中間目標値(R2末)の79.5%に対し、R2末の普及率は79.4%となっており、わずかに目標値に届かなかった。また、最終目標値(R4末)の80.8%に対しても0.6%足りなかった。これは、計画事業延長(3.0km/年)に対して実施延長が満たないためと考える。なお、今後の普及率の伸び率については現況の0.5%/年程度を維持していく計画となっており、目標値については数年以内に達成可能である。
	指標2									
	指標3									

※達成度 ○:評価値が目標値を達成、あるいは上回った場合 △:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合 ×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

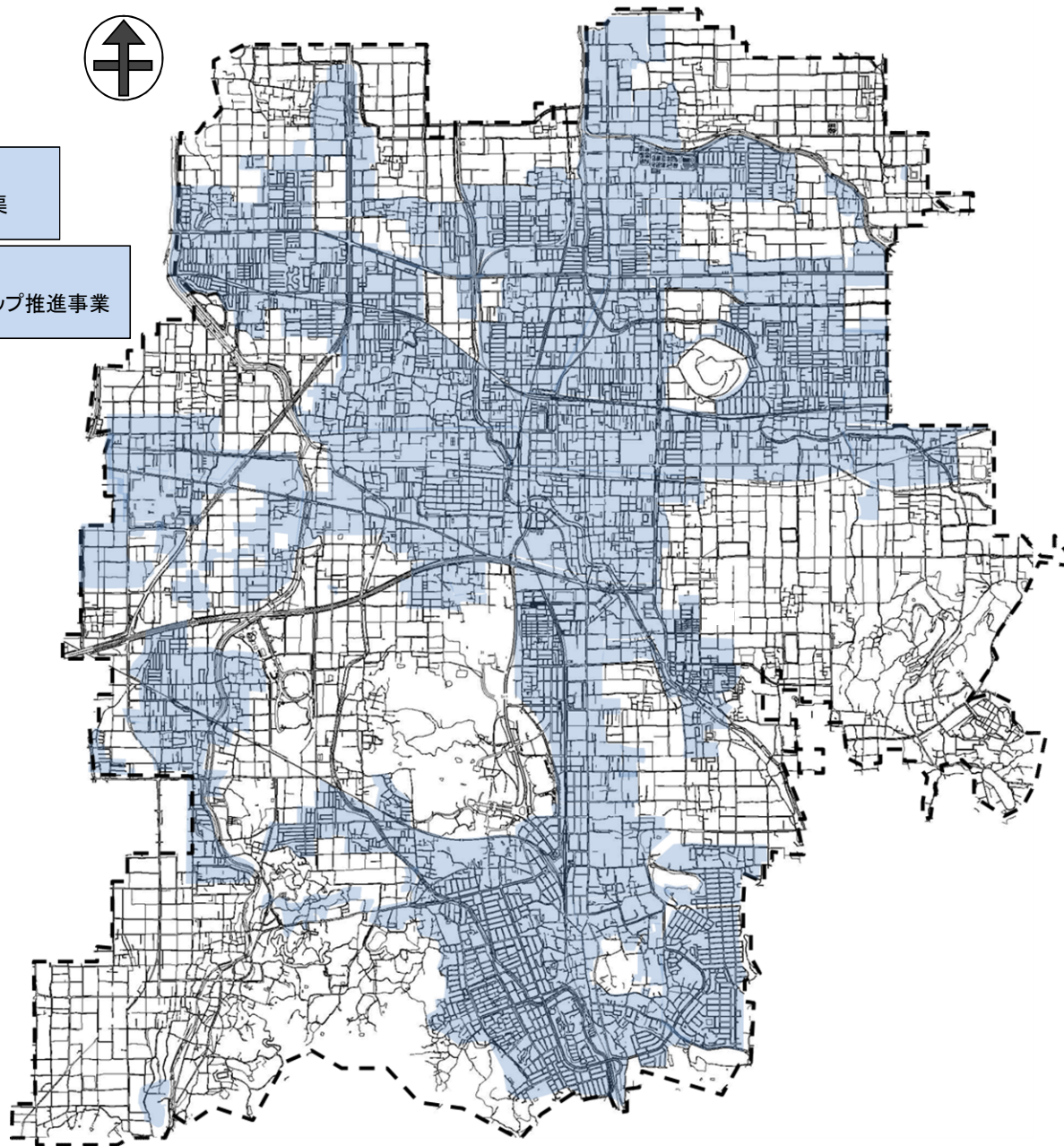
3)定量的に表現できない定性的な効果発現状況	市民に対する講座内で実験を通して水質改善の理解を深めてもらうことができた。水環境に対する意識向上に寄与しており、効果は高い。
------------------------	----------------------------------------------------------------

4) 地区の概要



下水道事業  
A07-001 第2処理区 汚水管渠

下水道事業  
C07-001 生活排水クリーンアップ推進事業



凡 例	
行政区域界	.....
A07 下水道事業	

5) 総合所見

下水道処理人口普及率については、目標値にわずかに届かなかったものの毎年一定数向上している。しかし前回計画H25～H29の普及率の伸び率が平均1.4%/年に対し、H30～R4の普及率の伸び率が平均0.5%/年となっている。これは下流域である交付金対象路線の整備が進み、交付金対象外となる最上流路線を多く含むエリアの整備に移行してきたため市単独費の割合が大きくなり、それにより実施整備延長が短くなったためである。今後もこの状況は続くと考えられるため、経営戦略に則った事業費の中で整備延長を伸ばしていくため、従来の工事手法をそのまま採用するのではなく、地域の特性に応じた整備手法等を積極的に採用し、整備コストの削減に努めていく必要がある。

6) 今後の方策

今後は市街化調整区域における整備効果の高い地域も同時に事業を進めていき、普及率の更なる向上に努めていく。また、市民への下水道接続啓発活動に力を入れることにより水洗化率の向上も併せて目指し、それにより公共用水域の水質保全を図り、環境に配慮した魅力的なまちづくりに寄与していく。

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	快適な生活を育むまち かしはら を実現する下水道整備（重点計画）												
計画の期間	令和03年度 ~ 令和04年度（2年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	檀原市												
計画の目標	特色ある魅力的なまちづくりを実現し、将来にわたって快適な賑わい溢れるまちであり続けるため、下水道の都市基盤整備を進める。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	941	A	940	B	0	C	1	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0.1	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (R3当初)	中間目標値	最終目標値 (R4末)
1	檀原市の公共下水道（汚水）の下水道処理人口普及率を79%（令和3年度当初）から81%（令和4年度末）に向上させる。 第2処理区の下水道人口普及率（%）=（処理区域内人口）/（総人口（住民基本台帳人口））×100（%）	79%	%	81%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
定量的指標1 当初現況値：79%、最終目標値：81%														

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												R03	R04	R05	R06	R07			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
下水道事業	A07-001	下水道	一般	橿原市	直接	橿原市	管渠(汚水)	新設	第2処理区 汚水管渠	汚水管 400mm~ 200mm L 3.0km	橿原市						940		-
											小計						940		
											合計						940		

C 効果促進事業

基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												R03	R04	R05	R06	R07				
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
下水道事業	C07-001	下水道	一般	橿原市	直接	橿原市	-	-	生活排水クリーンアップ 推進事業	地域住民への水質保全に関する啓発運動	橿原市							1	-	
		下水道事業と一体的に実施。出前教室やイベント等を通じて、公共用水域の水質保全の必要性をPRし、下水道整備に対する住民の意識高揚を図る。																		
											小計							1		
											合計							1		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
檀原市社会資本総合整備計画庁内評価委員会規定に基づき、檀原市社会資本総合整備計画庁内評価委員会を開催した。	令和5年10月  公表の方法 檀原市役所のホームページ

事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	下水道処理人口普及率については、目標値にわずかに届かなかったものの毎年一定数向上している。しかし前回計画H25～H29の普及率の伸び率が平均1.4%/年に対し、H30～R4の普及率の伸び率が平均0.5%/年となっている。これは下流域である交付金対象路線の整備が進み、交付金対象外となる最上流路線を多く含むエリアの整備に移行してきたため市単独費の割合が大きくなり、それにより実施整備延長が短くなったためである。今後もこの状況は続くと考えられるため、経営戦略に則った事業費の中で整備延長を伸ばしていくため、従来の工事手法をそのまま採用するのではなく、地域の特性に応じた整備手法等を積極的に採用し、整備コストの削減に努めていく必要がある。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	市民に対する講座内で実験を通して水質改善の理解を深めてもらうことができた。水環境に対する意識向上に寄与しており、効果は高い。

特記事項（今後の方針等）

今後は市街化調整区域における整備効果の高い地域も同時に事業を進めていき、普及率の更なる向上に努めていく。また、市民への下水道接続啓発活動に力を入れることにより水洗化率の向上も併せて目指し、それにより公共用水域の水質保全を図り、環境に配慮した魅力的なまちづくりに寄与していく。

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	81%
	最終実績値	80%
<p>檀原市の公共下水道（汚水）の下水道処理人口普及率を79%（令和3年度当初）から81%（令和4年度末）に向上させる。</p> <p>中間目標値（R2末）の79.5%に対し、R2末の普及率は79.4%となっており、わずかに目標値に届かなかった。また、最終目標値（R4末）の80.8%に対しても0.6%足りなかった。これは、計画事業延長（3.0km/年）に対して実施延長が満たないためと考える。なお、今後の普及率の伸び率については現況の0.5%/年程度を維持していく計画となっており、目標値については数年以内に達成可能である。</p>		